

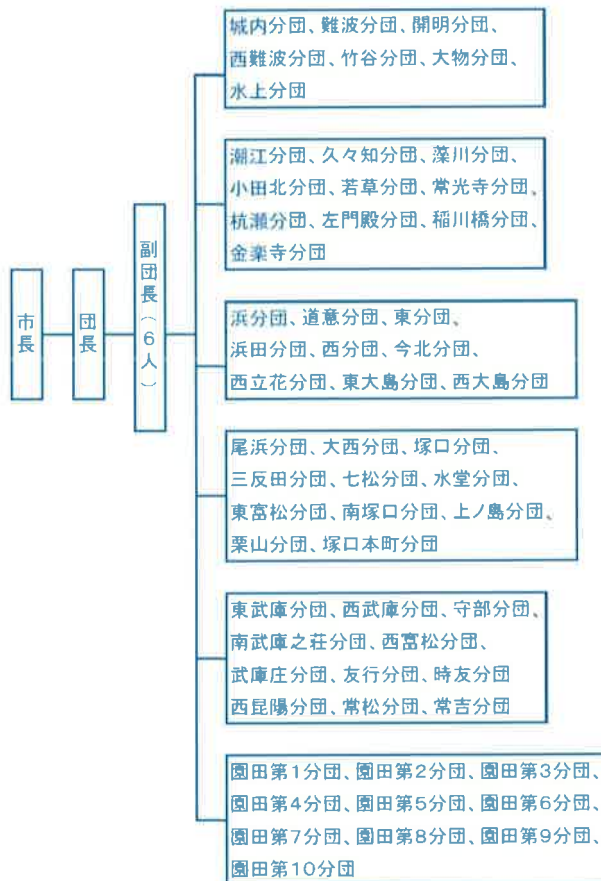
II 開催地域消防団の概要

① 阪神地区 尼崎市消防団

尼崎市消防団は、昭和37年7月市内の6消防団を1団に統合し、1市1団で組織する尼崎市消防団として発足以来、一糸乱れぬ「団結と調和」を合い言葉に、尼崎市内をくまなく防御し、市街地消防団とは思えぬ各種災害に対応できる組織力と技術を兼ね備えている。

平時においては、水防訓練（土嚢積工法）・消防ポンプ操法・機械器具点検・非常招集訓練・新任消防団員研修・消防団幹部研修等、年間をとおして技術の向上と精神の鍛練を忘れることなく、地域コミュニティの中心的役割を果たすとともに、災害時においては、常備消防との連携を密にし、安全で暮らしやすい町づくりを目指している。さらに、平成5年から女性消防団員を採用し、主に消防団PRや予防広報活動等を積極的に行い、地域住民への防火・防災活動にも熱心に取り組んでいる。

尼崎市消防団組織概要



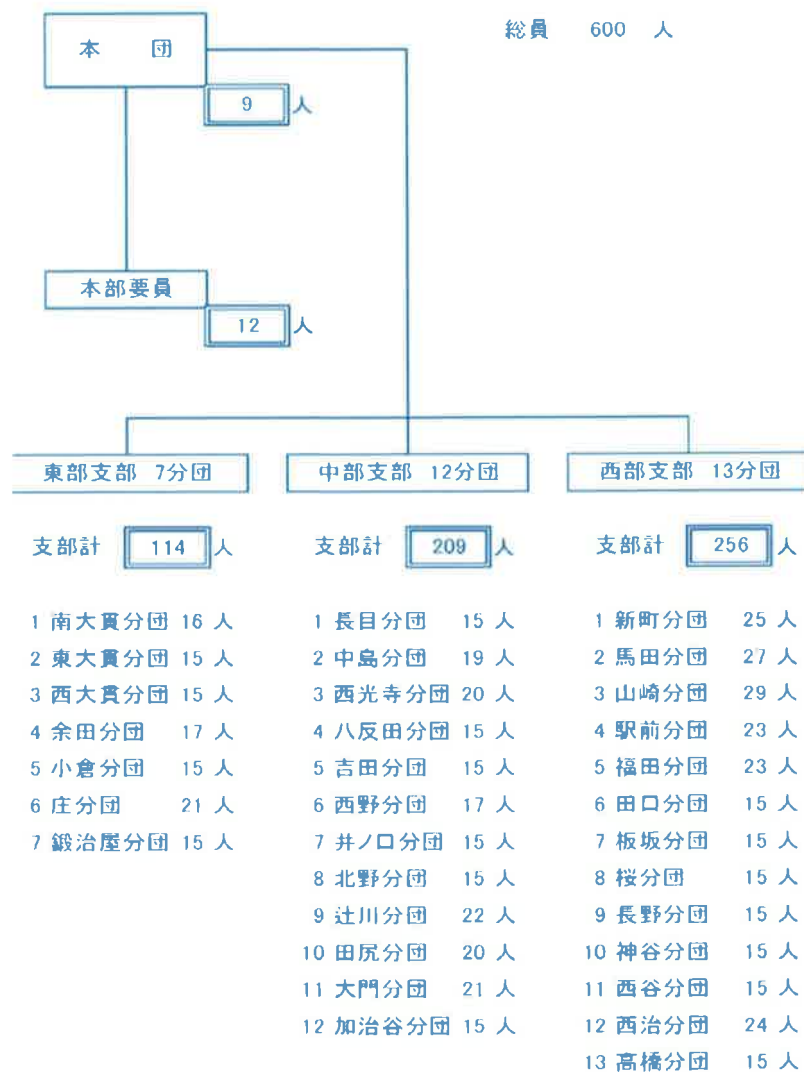
尼崎市消防団が抱える課題

- ・被雇用者が多い都市部の団員確保が難しい。
- ・地域住民等に対する協力、支援及び啓発の推進が難しい。
- ・消防団員の高齢化が進んでいる。

② 中播磨地区 福崎町消防団

中国自動車道と播但連絡道路が町の中央で交差する交通の要衝地である福崎町は、消防団員数600名という定数を長年維持しており、団員の平均年齢も31.5歳と、比較的若い団員で構成されている。消防団活動については、礼式訓練、実践放水訓練、機関員講習会、水防訓練等を行っており、住民全体に防火意識の高揚を図るため、本団独自の防火啓発推進事業を実施し、住民への防火懇談会を開催するとともに有事に即応した新しい知識、技術の習得を行っている。

福崎町消防団組織概要



福崎町消防団が抱える課題

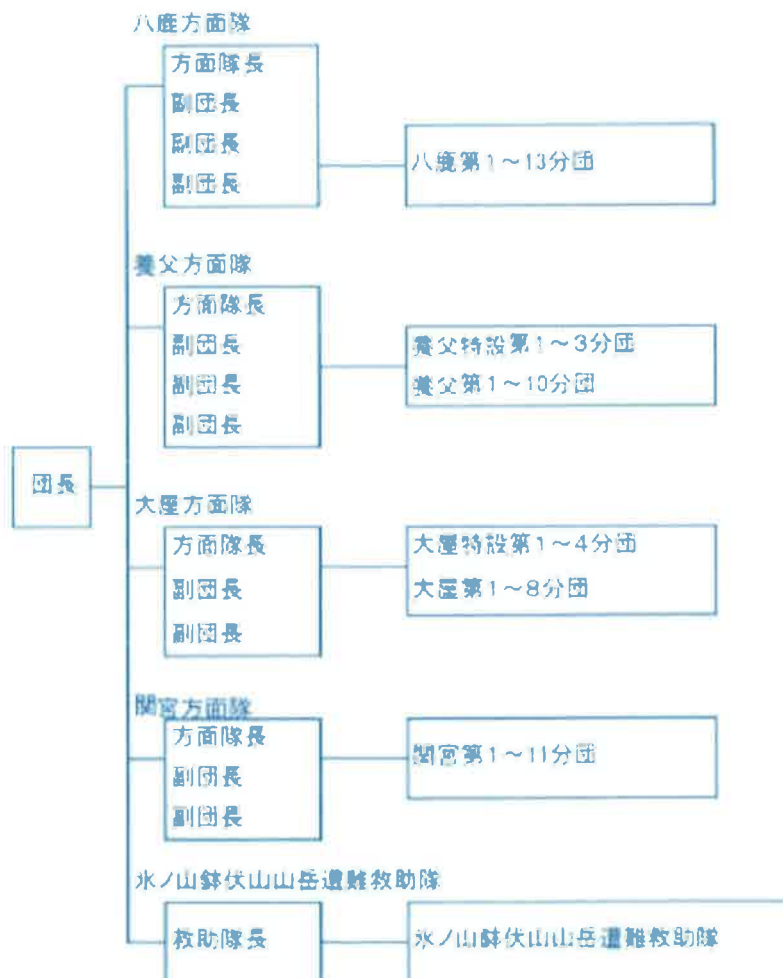
- ・ 少子化に伴い、今後の消防団員確保への不安がある。
- ・ 消防団活動に対する事業所の協力体制や理解が不十分である。

③ 但馬地区 養父市消防団

養父市消防団は、平成16年4月1日の養父市合併に伴い、八鹿町、養父町、大屋町、関宮町の4つの消防団が合併して誕生した。

現在の市内の人口は、25,373人（平成27年4月1日）で過疎と高齢化の課題を抱える中、条例定員1,360人に対し、実員1,288人（平成27年4月1日）で活動している。組織は、旧町毎に4つの方面隊、合計50の分団で、火災予防や消火活動、風水害対策、山岳救助活動などの業務に当たっており、優れた機動力を保持している。さらに、女性消防団員の活動も活発で、山間地域にある関宮地区は、独居老人宅や、高齢者の世帯へ訪問し、防火意識の向上、安全な暮らしのための啓発活動に力を入れており、女性ならではのきめ細やかな心遣いを持って活動している。

養父市消防団組織概要



養父市消防団が抱える課題

- ・ 消防団員の確保が難しい
- ・ 企業からの理解を得るなど、消防団員が活動しやすい環境作り。